



一宮町長  
馬淵 昌也

皆さんご存知のとおり、この元日に、能登地方を大地震が襲いました。まずは亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々に心からのお見舞いを申し上げます存じます。2日以降、被害状況が明らかになっ

てくる中で、4日の仕事始めに際して、人口が一宮町とほぼ同規模で、地震と津波の被害が特に激しいと思われる珠洲市を一宮町の支援対象にしようという役場で相談しました。その後、役場に募金箱を備えることも、ふるさと納税の代行も行うなど、微力ながら支援を行っています。

このたび、発災からもう2ヶ月以上経つたのですが、どうも能登の被害の全貌が明瞭な形で伝わってきません。テレビもネットも、関連ニュースが減ってきている一方、倒壊家屋の瓦礫はほとんど片付けられていないようです。避難中の方もまだ大勢いらっしゃるようです。現状はどうなのか、いまひとつクリアな像を結ばず、歯がゆい思いを禁じえません。

これは、いったいどうしたことなのでしょう。マスコミの報道力の衰退もあるのかも知れませんが、能登が閉鎖的な半島であって、地勢も複雑に入り組んで

いて、交通が不便なことも関連していると思います。

実は、わたくしども房総半島も、同じような袋状の閉鎖空間です。しかも、半島内部は丘陵と谷間が複雑に入り組んだ地形で、見通しがききません。大地震が起こったら、能登と同じように、被害の全貌がなかなかわからないのではな

いかと危惧します。今回の能登での経験には、わたくしども房総半島の人間にも、学ぶべきところが多くあると思

先日より、一宮町役場の職員の諸君が、珠洲市の救援に赴いてくれています。先発として出向いた職員については、同時期に珠洲市で救援に従事していたわたくしの旧友の医師から、被災者に寄り添う対応が格別にすばうしかった、この賞賛のメールが届き、大変嬉しく思いました。続いて現地へ向かった職員は、かつて自身が被災者として避難した経験があるとのこと。彼もひととき深い知見にもとづいて現地の方々により適切な対応を差し上げて貰えることを期待しています。こうした職員諸君の貴重な経験から、多くを学ばせて貰おうと思